



扉 第85号
2023. 3. 3 発行
愛知県立
常滑高等学校
図書委員会

卒業生に贈る

この一冊

『セッター思考』

人と人をつなぐ技術を磨く』

校長 岩月 迅美 先生

私にとって全日本女子バレー代表チームのセッターは、昨年まで代表監督を務めていた中田久美さんが一番印象に残っています。平成で考えればロンドン五輪銅メダル時の竹下佳江さんでしょうか。本書はキャプテンも務めた竹下さんが、体験から得られた「仕事と人生の成功法則」をまとめたものです。

小学校時代にバレーを始めたものの、決して恵まれた体格でなか

った彼女が、バレーから完全に離れるような挫折を経験しながらも身に付けた「周りを支える喜びが自分の喜びに変わる」という考え方を紹介しており、これを「セッター思考」と名付けています。本書の後半では「セッター思考」を磨くための習慣が紹介されていますが、ぜひ皆さんにも身に付けて欲しいものばかりです。例えば『できない理由』ではなく『できる理由』を考える。指示待ち人間になるのではなく、できることを自分で考えて、決めて、動く人間になる。ということ。他に『結果に踊らされず「目の前のこと」に真摯に向き合う』など、全部で七つ紹介されています。これから社会に出ていく皆さんには必要となるジャンルの本なのではないでしょうか。

（竹下佳江著 PHP新書）

『勝言（しょうげん）』

三年学年主任

井浦 淑行 先生

「努力は必ず報われる。もし報われない努力があるならそれはまだ努力とは呼べない」（王貞治）

「苦しい時は私の背中を見なさい」（澤穂希）

（澤穂希）

人生の励みになるアスリートたち百人の言葉がシンプルに心に突き刺さります。

もしも君たちが大きな壁にぶつかっていたり、人間関係に悩んでいた、先が見えない不安にさいなまれていたならば是非手にとってみてください。

生きていくうえで「大切な何か」を教えてください。言葉がきくと見つけるはずですよ。

（アスリート勝言研究会著）

（笠倉出版社）

『怪談』

教務主任 甲斐 昌夫 先生

小泉八雲は、本名ラフカディオ・ハーンという外国の人です。来日して、日本の古い文化に強い関心を示し、特に説話や昔話に興味を持った人です。

英語の教員として、熊本や松江での生活をしていく中で特に関心を持ったのが、「怪談話」でした。日本語で書かれた物語を日本人の奥さんに読んでもらい、その話を自分なりに書き換えるなどしてまとめたものが「耳なし芳一」を表とする「怪談」です。

私は、大学時代に卒業論文のテーマとして小泉八雲を扱ったこともあり、今でも時々読み返すこともあります。

今後時間が取れたら、日本語訳の文章だけでなく、英語で書かれた原文にも触れてみたいと思います。

（小泉八雲著 偕成社文庫）

『やさしい異文化理解』

進路指導主事 今井 秀明 先生